



JAL不当解雇撤回ニュース

No415 号 2014.12.17
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.co>

JALの仲間とともに空の安全をとりもどす 12.2集会IN大阪



師走に入り早速の寒波が襲来した12月2日。「JALの仲間とともに空の安全をとりもどす12.2集会実行委員会」主催により12.2集会が行われました。おりしも衆議院選挙の公示日と重なり、参加者の人数が心配されましたが、500名を超える参加を得ました。弁護団の一人でもある梅田章二弁護士は「この闘いは全ての労働者にかかわる問題で、空の安全は全ての国民に関わる問題です。どうか皆さん力を貸して下さい」とあいさつしました。会場では“BELIEVE”の音楽が流れ、外の寒さを吹き飛ばす熱気に満ち、そして連帯感に包まれた集会となりました。



醍醐 聡 東大名誉教授

地裁・高裁判決に対して怒りが治まらない。空の安全から見た時、JALはベテランの経験と技量を失い安全の層を薄くしてしまった。破綻処理しなくても自力で再生できた。この破綻は仕組まれた国策破綻だった。透けて見えてくる解雇の真相(不当労働行為)や支離滅裂な人員不足対策、安全文化を壊す稲盛式経営などを放置しておくわけにはいかない。



司会の3人 左から片方真佐子さん・原告西岡ひとみさん・大橋裕子さん

壇上にて、原告13名がそれぞれの気持ちを訴えました。タイの格安航空会社で働く乗員原告から、労働組合のない航空会社では安全は守れないと滅茶苦茶な勤務実態が報告されました。またIBM・郵政ユニオン・全厚生・エミレーツ・中津学園の闘う仲間が闘争報告をし、国労・自交総連から力強い連帯のあいさつがありました。

“あの空へ帰ろう”の大合唱の後、手作りの紙飛行機800機が会場を舞い、舞台から客席に降りた原告団は大拍手に包まれました。「原告団の凛とした姿に心打たれた」「徐々に組合の役員を引き上げようと決意した」「元気をもらった」「真実を知れば知るほど解雇の理不尽さに怒りがこみ上げる」などの感想が寄せられました。大成功そして大感動の2時間、このパワーで必ず最高裁に弁論を開かせましょう。